

アジア10か国の大学生が、フィールドワークを通じて持続可能な平和構築について学びます
第8回「アジア学生交流環境フォーラム (ASEP)」をカンボジアにて開催



外務省「日メコン交流年2019」認定行事

公益財団法人イオン環境財団(理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役)は、8月1日(木)より6日間、第8回「アジア学生交流環境フォーラム (Asian Students Environment Platform、以下、ASEP)」をカンボジアで開催します。

当財団の事業活動のひとつに環境教育があります。将来、グローバルなステージで活躍する環境分野の人材育成はとても重要であると位置付けております。2012年にスタートした本フォーラムは、毎年1カ国1大学を参加者に加え継続実施しており、本年はフィリピン大学を新たに迎え、アジア10カ国10大学80名の大学生が「持続可能な平和構築」というテーマのもと、カンボジアのプノンペンとシェムリアップにてフィールドワークを行います。「平和」はイオンの基本理念のひとつでもあり、持続可能な社会実現のために必須要件と捉え本テーマとしました。

フィールドワークでは、アンコールワット遺跡や周辺森林を中心に、カンボジアの歴史や自然環境の変遷と同時にリモートセンシング技術を活用し衛星画像による環境変化についても学びます。10カ国の大学生が、各国の自然環境や価値観の違いを共有し合い、国境を越えた討議を実施します。なお、本事業は外務省の「日メコン交流年2019*」の記念行事として認定されています。

当財団は、今後も、いのちあふれる美しい自然を次代に引き継ぐため、環境教育をはじめとする環境活動に積極的に取り組んでまいります。

記

1. 日程/場所： 8月1日(木)～8月6日(火) カンボジア(プノンペン・シェムリアップ)
2. 主催： 公益財団法人イオン環境財団
3. 協力： カンボジア王立プノンペン大学・早稲田大学・上智大学
一般社団法人リモート・センシング技術センター
4. 参加校： 王立プノンペン大学(カンボジア)、清華大学(中国)、インドネシア大学(インドネシア)
早稲田大学(日本)、マラヤ大学(マレーシア)、ヤンゴン経済大学(ミャンマー)、高麗大学校(韓国)、
フィリピン大学(フィリピン)、チュラロンコン大学(タイ)、ベトナム国家大学ハノイ校(ベトナム)
5. 後援： 在カンボジア日本国大使館、毎日新聞社、中国青年報、朝鮮日報社、トイチェ社、コンパス紙、ラスメイカンブチア新聞
6. 出席(予定)

<p>開講式： 教育、青年、スポーツ省 在カンボジア王国日本国 王立プノンペン大学 在カンボジアタイ王国 在カンボジアミャンマー連邦共和国 イオン株式会社</p> <p>閉講式： 王立プノンペン大学 イオンモールカンボジア株式会社</p>	<p>大臣 駐節特命全権大使 学長 特命全権大使 臨時代理大使 執行役 副学長 社長</p>	<p>ユオック・ノイ閣下 堀之内 秀久閣下 チェット・チーリ様 パンヤラック・プーンサップ閣下 ディン・ピャット・ティダ・キョウ様 西嶋 泰男 オム・ラビ様 中川 哲以</p>
---	--	--
8. 主なプログラム：

8月2日(金)	開講式(カンボジア王立プノンペン大学)・イオンカンボジア視察
8月3日(土)	アンコールワット遺跡・周辺森林視察
8月4日(日)	バンテアイクデイ植樹、イオン・シハヌーク博物館視察
8月5日(月)	イオンマンゴースクール視察
8月6日(火)	成果発表・閉講式

以上

※日本とメコン地域諸国において様々な団体とも連携し政治、経済、文化等幅広い分野での交流を推進する2019年「1年間限定」の事業です。

【本件のお問い合わせ先】公益財団法人イオン環境財団 板谷 電話：043-212-6022

ご参考

<2012年～2018年 ASEPの活動について>



第1回（2012年：日本）
テーマ：「文化から環境を考える」
中国、日本、韓国の3カ国60名が参加



第2回（2013年：韓国）
テーマ：「環境と人間」
中国、日本、韓国、ベトナムの4カ国79名が参加



第3回（2014年：中国）
テーマ：「水と人」
中国、日本、韓国、マレーシア、ベトナムの5カ国80名が参加



第4回（2015年：ベトナム）
テーマ：「生物多様性と人」
カンボジア、中国、日本、韓国、マレーシア、ベトナムの6カ国72名が参加



第5回（2016年：日本）
テーマ：「生物多様性と叡智（えいち）」
カンボジア、中国、日本、韓国、マレーシア、ベトナム、インドネシアの7カ国84名が参加



第6回（2017年：日本）
テーマ：「生物多様性と再生」
カンボジア、中国、日本、韓国、マレーシア、ベトナム、インドネシア、タイの8カ国64名が参加



第7回（2018年：マレーシア）
テーマ：「熱帯雨林からの贈りもの」
カンボジア、中国、日本、韓国、マレーシア、ベトナム、インドネシア、タイ、ミャンマーの9カ国72名が参加

ご参考

【公益財団法人イオン環境財団について】

「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」というイオンの基本理念のもと、1990年に設立されました。設立以来、環境活動に取り組む団体への助成や、国内外での植樹活動、生物多様性への取り組みを主な事業として、さまざまな活動を継続しています。イオンの植樹は1991年のスタートから数え、当財団の植樹本数を合わせて累計1,193万本（2019年2月末時点）を超えています。

（イオン環境財団ホームページ <http://www.aeon.info/ef/>）

【カンボジアにおけるイオン環境財団の活動について】

〔植樹事業〕

■2002年、2004～2005年、2007年「アンコールワット植樹」

イオン1%クラブが主催した「カンボジア学校建設」事業に併せて、世界遺産に指定されているアンコールワット周辺で植樹を行いました。累計約1,182人の日本とカンボジアのボランティアの方々のご協力のもと、7,600本の苗木を植えました。その後、2007年には火災による焼失分を補植しています。

■2007年、2009年「シハヌーク・イオン博物館植樹」

カンボジア・アンコールワットの隣接地で、上智大学の石澤教授により発見された世界的遺産である274体の仏像（廃仏）を守るべく、シハヌーク・イオン博物館が2007年11月2日（金）にオープンしました。オープニングセレモニーに参加されたボランティアの方々により植樹を実施しました。同時に博物館の前庭の整備や給水設備も設置しました。

■2010～2011年「カンボジア植樹」

アンコール遺跡群チャウスレイ・ヴィヴォル遺跡周辺の森林は、生活伐採で荒廃した状態で放置され、風から遺跡を保護する機能が低下しつつありました。アンコール遺跡群を管理するアプサラ機構とイオンは、遺跡周辺の森林の再生を実施すべく、日本からのボランティアと地元民の方々580名とともに5,266本の植樹を実施しました。



2011年 カンボジア植樹

■2015～2017年「カンボジア・プノンペン植樹」

プノンタマウ野生生物保護センターは、プノンペンから約45km南方に位置するカンボジア最大級の動物園であり、現在、絶滅の危機にある種を含む98種、約1200もの動物を保護しているほか、市民の憩いの場ともなっています。内戦や生活伐採により荒廃した広大な保護センター敷地内の森林を再生するため、3年間の累計2,330名のボランティアの方々と21,000本の植樹を行いました。



2017年 カンボジア・プノンペン植樹

【環境教育事業】

■イオン環境セミナー（BBセミナー）

当財団は、早稲田大学と連携して開催する環境セミナーです。国際的な視野で生物多様性の価値を問い直し、新たな価値共有ができる教育を行うことを主な目的としています。2017年10月13日（金）、「生粒多様性と平和」をテーマに、カンボジア王立プノンペン大学にて開催しました。カンボジアで生物多様性と平和の構築に向けて、実践活動を行っている方のケーススタディを受講しました。



2017年 イオン環境セミナー

【理事長 岡田卓也がカンボジア王国友好勲章大十字型章を受章（2010年）】

長年にわたるカンボジア王国への環境・社会貢献活動がカンボジアの経済、文化交流の発展に貢献したと評価を受け、カンボジア王国より2007年に「Le Grand Officer（将校章）」を、また、2010年には最高位である「Royal Order of Sahametrei Grand Cross（友好勲章大十字型章）」を親授されました。



2010年 受賞

【公益財団法人イオンワンパーセントクラブ（以下、イオン1%クラブ）について】

1989年、ジャスコ株式会社代表取締役会長（当時）岡田卓也の提唱により設立され、2015年に公益財団法人に移行。企業の業績にかかわらず継続的に活動するため、グループ主要企業各社が税引き前利益の1%を拠出し、「次代を担う子どもたちの健全な育成」「諸外国との友好親善の促進」「地域社会の持続的発展」を柱として活動しています。

■学校建設支援事業（2000年～2003年）

長く続いた内戦によって失われたカンボジアの教育基盤の早期回復を願い、2000年よりイオングループ店舗、事業所での募金を実施し、イオン1%クラブからの寄付金をあわせ総額3億円を日本ユニセフ協会へ寄付しました。日本ユニセフ協会とのパートナーシップを柱に150校を建設し、これまでに約37万名の子どもたちが学校を卒業しています。



2001年カンボジアで開校された学校

■「シハヌーク・イオン博物館」寄贈（2007年）

「シハヌーク・イオン博物館」は、上智大学アジア人材養成研究センターが2000年、2001年の期間に発掘したアンコール王朝期の仏像を保存・展示すべく、イオン1%クラブの寄付と上智大学の石澤良昭教授チームとアプサラ機構の協力のもと、建設されました。カンボジアの文化遺産をカンボジアの方々の手により研究・保存いただくために国へ寄贈し、2007年11月の完成式典にはシハモニ国王陛下もご臨席されました。

■イオンスカラシップ

イオン1%クラブは、日本で学ぶアジアからの留学生及びアジア各国の大学生・大学院生に奨学金を付与する「イオン スカラシップ」では、これまでに7カ国6,372名の学生に奨学金を支給し、うちカンボジアからの留学生及び同国内学生110名に奨学金を支給しました。



2017年王立プノンペン大学での授与式

■日本 カンボジアティーンエイジアンバサダー（高校生交流）事業（以下、日・カンボジアTA）

イオン1%クラブは、「諸外国との友好親善の促進」を事業目的の一つとして掲げ、1990年より日本とアジアの次代を担う子どもたちへ価値観の多様性とグローバルな視野を持つ機会を提供する国際交流事業で実施しています。これまでに、日本を含む18カ国2,670名の高校生が交流し、うちカンボジアとのプログラムでは152名が交流しました。



2017年カンボジア TA 来日時の学校訪問

■イオン・ユニセフ セーフウォーターキャンペーン

カンボジア、ラオス、ミャンマーの一部地域では、衛生的な水の確保が難しく、不衛生な池の水や、健康を害する恐れのある物質を含んだ地下水が生活用水として使われています。また、遠方への水汲みに時間をとられ、学校で学べない子どもたちもいます。

イオン1%クラブは各国の子どもたちを健康・教育の両面でサポートするために、子どもたちがくらす村や町に給水施設を設置する「イオン・ユニセフ セーフウォーターキャンペーン」を2010年にスタートしました。2016年までに3カ国累計では約49万3,000名、うちカンボジアでは37万9,000名の方々が安全な水を使えるようになりました。



■「バタンバン義肢センター」支援（1998年～2000年）

イオン1%クラブは、日本赤十字社とのパートナーシップのもと、1998年より3年間にわたりカンボジア・バタンバン義肢センターを支援しました。バタンバン義肢センターは、地雷で被害を受けた人々へ義肢の支給や、リハビリを通じて社会復帰を支援する施設で、イオングループ店舗、事業所での募金及びイオン1%クラブからの寄付金をあわせ同センターに1億7,300万円を寄付し、支援にお役立ていただきました。

